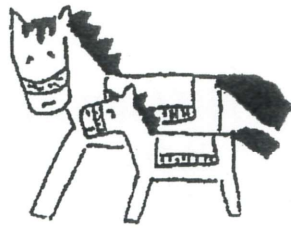


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぼっくりぼっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと



令和5年 8月 No.345

〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<https://oumanooyako.com>



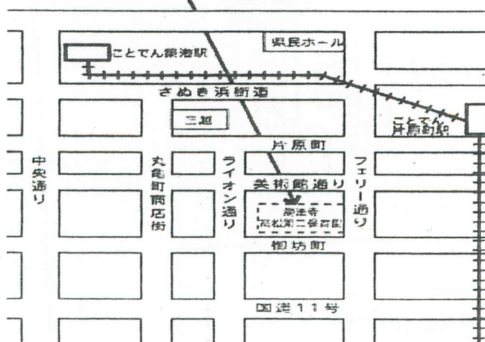
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～			8月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
8月	3日 17日	木	こうさぎおはなし会 15:00～16:00	低年齢児にもわかるおはなしや紙芝居も あります。どうぞおいで下さい。
8月	4日 25日	金	ヨガを楽しむ会 14:30～16:00	冷房と外気温度の差で起こる寒暖差疲労を やわらげるため、体を動かしてみましょ。
8月	8日 22日	火	体験保育 15:00～16:00	部屋の中で運動遊びをしてみませんか。
8月	12日	土	おとなアート 14:00～16:00	するめ独特の色彩や風合いを意外な素材や 組み合わせで表現してみましょ。
8月	18日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	皆様のお好きな絵本を持ちより、本の絵や 内容を紹介してみんなでフリートークします。
8月	23日	水	自然の中の遊び体験 15:30～16:30	洗濯ばさみを蚊に見立て、鬼ごっこをします。 夏の生き物の生態を知りましょ。

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

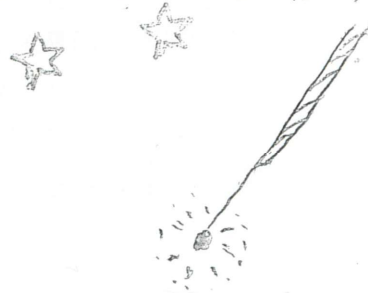
育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
地域子育て支援センター



金子みすゞ童謡全集⑤
「さみしい王女・上」より

夏の宵
よい
暮れても明るい
星がハモニカ
吹いている。
暮れても明るい
空のいろ、
立つ埃、
空馬車から
踊っている。
暮れても明るい
土のいろ、
線香花火が
もえ尽きて。
あかい火だまが
ほろと散る。



☆今月の内容 —
・「愛情」という肌着
・「異次元」の前に
・讃岐おもちゃ美術館8月のイベント

「愛情」という肌着

当園は昭和18年9月の開園であります。園の設立文には「大東亜共栄圏の完遂の為銃後保育所を設立す」と記載されておりました。園名を「東亜保育所」と称し、今日では殆ど耳にする事の無い戦時保育所としての始まりでした。御下賜金として当時200円を拝領した記録も残っており、「オルガンを購入した」とも記されています。仏教保育とはあまりにも縁遠い開園でありました。当寺は、近隣の子ども達の遊び場として、毎日、本堂や境内に多くの子ども達が入り出りしていたことにより、行政からの依頼を受け入れ開園に至ったようです。京都に多くの仏教保育園が存在するのは、これが起因の一つにあると思われまます。

戦後間もない頃より、アメリカによって脱脂粉乳が子ども達に支給され、たくさんの脱脂粉乳を前に置き、級友達と一緒に並んで座り「アメリカさん、ありがとう」と写真に納まったこと、送られてきた脱脂粉乳はドラム缶様の大きく頑丈な紙筒に入っていたため、空っぽになった紙筒に入り転がっては楽しく遊んだことが忘れられない記憶として今も残っています。

昭和23年に児童福祉法によって許認可を得ると、平和日本の戦後の復興、発展を願い、園名を「東亜」から当寺の名称である「随林寺」の名を冠とした「随林寺保育園」に改名しました。昭和28年には、進駐軍からの払い下げの建物を購入し、保育園の園舎としました。その建物は元々日本軍の建物であり、総檜造りの素晴らしいものでした。後年、園舎建替えの際の解体時には、天井裏の立派な梁に多数の英文字を偶然見つけ、感慨深く眺めることとなり、毎朝寒いホールの板の間に正座し、かじかんで指が真っすぐ伸びない手を合わせ仏参したことが思い出されました。大戦後の衛生を確保する薬剤として、白いDDTの粉を頭、身体に振りかけられ、お互いの白い顔を見ながら笑いあっていたのもこの頃でありました。

昭和20年代から昭和30年代へと時が移り、戦後の混乱がやっと落ち着き始め園の周囲でインフラ整備が進むと、それまでの社会状況に即した保育園のあり方にも変化が生じ、園の保育内容の充実に目が向けられるようになってきました。

私の大学時代は、戦後の教育を受けた人達が集った時代であり、学内では建物の屋上から投げられた火炎瓶が頭上を飛び交い、4年間の学生生活の内2年の間が学校封鎖で授業すらありませんでした。安保闘争、東大紛争と



というような、その他多くの学園紛争、社会混乱の影響を大きく受けたものとなりました。大学卒業と同時に園長職を拝命したのは昭和48年のオイルショックの渦中、世界にエネルギーの大変革がもたらされ、石油を中心とした微妙なパワーバランスが崩れ行く状況下でした。子ども達に何を教えていくべきか迷い考え続け、仏様の教えを伝えていくことは必須ですが子どもだけではなく、成長を支える保護者、職員に対してもその教えの大切さを説いていく意義を強く感じ、今こそ、一から仏様の教えを伝えていこうと奮起し取り組みました。しかしながら、家族、親戚で仏壇に手を合わせる法事も減り、親、僧侶から仏様の話を聞く機会も少ない環境下で諸外国から情報が容易に手に入る今、アニメ、漫画等、他の媒体から与えられる膨大な量の情報を仏様の教えの基に精査することなく、自身に取り入れ知識とした子ども達の価値判断の基準に変化が生じてきています。古来からの日本の仏教的な価値観が薄れ、諸外国の多角的な価値観が広がり、子ども達の中に多様な思想形態の存在がみられるようになってきました。一方の教育に関わる保育園の職員においても、相手をおもんばかり個々の職員の人格、思想を認め合った上での教育が難しい状況となってきたのも事実です。

当園では、たくさんの体験の中から得意とするものが一つでも見つかかり、子ども達の自信につながっていくように、また、将来、自身が直面するであろう好機に臆することなく臨むことができる力を身につけられるようにと願い、それぞれの年齢にあった様々な体験、経験ができる試みを取り入れ、押しつけではなく、子ども達から自発的に学ぼうという意欲が芽生える保育の構築を志向しております。

人間の基礎を築く保育園時代、0歳、1歳の時期に「愛情」というしっかりと肌着を着せてあげることが、成長と共に知識、経験という上着をきちんと着重ねることに繋がります。「愛情」という肌着をしっかりと着ることができないと、後に上着を上手に着重ねることができず、人間の本性の姿を見せてしまうこととなります。仏様の教えを伝える仏教保育の重要性を強く感ずる昨今であります。めまぐるしく変わる世界情勢に対し、人間形成の一端を担う保育者として仏様の教えを基に、今後も子ども達の育成に精進して参りたいと考えております。

随林寺保育園 園長

戸津川 聖信



「異次元」の前に



年頭記者会見で「異次元の少子化対策」を掲げた岸田文雄首相。日々、子育てと仕事の両立に限界を感じる一人として、注目していた。だが数日前に岸田首相が国会で、育児中の女性の学び直しを支援する考えを示したことに「育児の大変さを分かっているのか」と多くの批判や疑問が向けられている。

知り合いの中には、育児中に難関の教職員採用試験に合格した人もいる。ただ、自分自身を振り返ると、夜泣きで30分も睡眠が取れない日も多く、疲労から繰り返し体調を崩した。

育休中、仕事復帰を見越した用事で、自治体のウェブサイトを見て子どもを数時間預かってもらおうとしたことがあった。手続きには1時間以上かかった。ところが後日、担当者から「あなたの赤ちゃん、泣きますか」と問い合わせが。「ハイ」と答え、「泣く子はだめです」。問い返す力もなかった。突き放された感覚になり、赤子を抱きしめ泣いた。

「支援メニューが紹介されているというのに、実際には使えないものがある、というのは『子育てあるある』。復帰後、子育て支援に長年関わる女性から聞いた言葉に衝撃を受けた。異次元の前に、今ある支援が本当に機能しているか、点検してほしい。

佐賀新聞 朝刊より

さぬきおもちゃ美術館 8月のイベント

8/1(火)、8/5(土) カリンバを作ろう

8/6(日) 自分だけの30wayチェアを作ろう

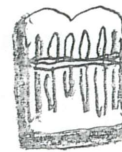
8/11(金,祝日) グラスコースターを作ろう

8/13(日) 夏の万華鏡作り、さをり織コースター作り

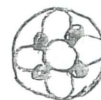
8/19(土) 夏休み工作教室(糸のこでパズルを作ろう!)

8/20(日) 張子虎絵付け体験

8/27(日) オクラの絵のポーチを作ろう



親指ではじく
手作り楽器



時間や費用、対象年齢など

お問い合わせ TEL・087-884-7171

FAX・087-884-7172

休館日—毎週木曜日、年末年始